

弘前市立博物館

ニュースレター

No.20

Hirozaki City Museum Newsletter

■9月になりました

ねぶたも終わり、9月になりました。記録的な酷暑も次第に落ちついて、秋の訪れを感じるこの頃、皆様におかれましては体調などくずされてはいないでしょうか。

博物館では、8月1日から開始した企画展「ヤーヤドー！弘前ねぶたの今と昔」を引き続き開催中です。弘前ねぶたの歴史をたどる本展では、江戸時代の記録から、明治・大正の古写真、昭和の名絵師、平成のねぶた絵など幅広い資料を紹介しております。皆様には、弘前ねぶたの歴史を知っていただくとともに、今との違いを探してみたり、自分の好きなねぶた絵を見つけたりするのも面白い展示だと思います。

そして、会期中の夏休み期間は、多くの皆様にご覧いただきました。特にねぶた祭りの期間中は入館者数が、連日 100 名を超えるご盛況をいただきました。お暑い中お越しいただきありがとうございました。

博物館では、会期終了の9月 28 日(日)まで、ねぶたのような熱い気持ちで皆様をお迎えいたしますので、ぜひお越しいただければ幸いです。

■企画展「ヤーヤドー！弘前ねぶたの今と昔」紹介

弘前を代表する祭りである「ねぶた」は、300年以上の歴史をもつ民俗行事であり、国の重要無形民俗文化財にも指定されています。本展では、時代による弘前ねぶたの移り変わりを楽しんでいただける展示で、江戸時代の記録から平成のねぶた絵までを紹介しています。ねぶたを見たことがない方も、長年のねぶたファンもお楽しみいただける内容です。今回は、展示資料から学芸員のイチ押しをご紹介します。

【イチ押し！ねぶた紹介】



▲見送り絵「乙姫」1969 年

・昭和の名絵師 竹森節堂

現在の弘前ねぶたの様式を確立した人物の一人です。大和絵風の色彩と、精緻な構図力、確かな日本画の技量から生み出されるねぶた絵は、「楷書体ねぶた」と称されました。

後述する石澤龍峽とともに、今なお伝説として語り継がれる昭和の名絵師です。

イチ押しは、大町のねぶたの見送り絵です。大和絵風の顔立ちで描かれており、とても節堂らしい作品です。当館が所蔵する節堂のねぶた絵の中でも、色が鮮やかに残っており、当時の雰囲気をも今に伝えています。

・昭和の名絵師 石澤龍峽

竹森節堂と双璧をなす昭和の名絵師です。下絵なしに、激しく流れるような筆遣いで描かれる豪壮なねぶた絵は、「行書体ねぶた」と称されました。津軽錦絵作家協会の設立、初代会長をつとめるなど、弘前ねぶたの発展に大きく貢献した人物です。



▲鏡絵「趙雲、幼主を救う」

昭和(戦後以降)※題材は推定

題材は正確には不明ですが、中国の『三国志』から劉備の部下である武将・趙雲を描いたと推定されています。龍峽らしい勢いのある作品で



す。『三国志』や『水滸伝』は、人気の題材で、本展ではモデルとなった江戸時代の冊子や浮世絵も紹介していますので、ぜひあわせてご覧ください。

・平成の名絵師 3名の展示

昭和の終わりから平成に活躍した、聖龍院龍仙(八嶋龍仙)、高橋翔龍、三浦吞龍。3名とも石澤龍峽の弟子ですが、それぞれが独立した個性を持っています。今回は、天井の高い特別展示室で、3名一緒に展示しました。壁一面に貼られた大きなねぶた絵は、実際のお祭りのような大迫力です。令和もすでに7年になり、平成も少し懐かしくなりました。少し昔のねぶた絵と、3名の絵師の魅力を共に楽しみください。



▲右:聖龍院龍仙、鏡絵「津軽為信奮戦の図」1988 年。左:三浦吞龍、見送り絵「常盤御前」2000 年。



▲中央:高橋翔龍、鏡絵「王定六奮戦図」1983 年

・画家 工藤甲人のねぶた絵

弘前市出身の画家である工藤甲人もなんと！実際に運行されたねぶた絵を描いています。こちらの作品は、1979年に市役所組ねぶたの見送り・袖絵として描かれました。宙を舞う蝶や渦を巻くような煙の表現が、いかにも甲人らしい作品となっています。ねぶた絵の特徴である蠟描きも細かく施されています。



▲見送り絵「修羅一夢」1979 年
(企画展担当学芸員 高橋)

■企画展関連イベント

「博物館で自由研究 ねぶたの色付けを体験しよう」開催しました ✨
8月16日(土)14時から小学生向けの、ねぶた絵色付け体験を行いました！ねぶたの開き部分に描かれる牡丹を染料と刷毛を使って塗ります。子どもたちは、真剣な表情で取り組んでいました。特に難しい花びらのグラデーションにも挑戦！刷毛を上手に使ってきれいな牡丹が完成しました。講師はねぶた絵師としても活躍する当館職員の川村が担当し、蠟描きの実演も行いました。保護者の方も興味をもって見学していまし

た。ご参加いただきました皆様、ありがとうございました。



▲イベントの様子。子どもたちは熱心に聞いていました。



▲牡丹の色付けに挑戦！
(企画展担当学芸員 高橋)

【グッズ販売コーナーも展開中！】

受付カウンターでは、ねぶたグッズを販売中！オススメは、竹森節堂のねぶた絵を使った当館オリジナルのトートバッグ。要チェックです ☺



▲受付販売コーナーの様子

■休館日のお知らせ

9月29日(月)～10月17日(金)
上記期間は展示替えのため、博物館の利用ができません。あらかじめご了承ください。